

令和2年度 医学科授業及び行事日程

1. 授業

1年次	新入生ガイダンス	4月 1日(水) ~ 4月 2日(木)	(2D)
	新医学研究コース説明会	4月 3日(金) 14:00 ~	(1D)
	前期授業期間	4月 7日(火) ~ 8月 5日(火)	(16W)
		※4/29(水・祝)水曜日の授業実施日, 5/21(木)月曜日の授業実施日, 7/13(月)金曜日の授業実施日, 7/14(火)木曜日の授業実施日	
	(定期試験) 【Q1】	5月29日(金) ~ 6月 4日(木)	(1W)
		※6/5(金)授業・定期試験の予備日	
	【Q2】	7月29日(水) ~ 8月 4日(火)	(1W)
		※8/5(水)授業・定期試験の予備日	
	[セメスター]	7月31日(金)	(1D)
	全学共通授業科目再試験	9月 1日(火) / 9月 2日(水)	(2D)
		※9/3(木)再試験の予備日	
	夏休み	8月 6日(木) ~ 9月 6日(日)	(4W)
	初期体験臨床実習	9月14日(月) ~ 9月18日(金)	(1W)
	地域医療学	9月30日(水)	(1D)
	後期授業期間	10月 1日(木) ~ 2月 5日(金)	(16W)
		※11/12(木)火曜日の授業実施日, 1/5(火)月曜日の授業実施日, 1/13(水)月曜日の授業実施日, 1/21(木)金曜日午後の授業実施日	
	冬休み	12月26日(土) ~ 1月 4日(月)	(1W)
	(定期試験) 【Q3】	11月20日(金) ~ 11月30日(月)	(1W)
		※11/27(金)授業・定期試験の予備日	
	【Q4】	1月29日(金) ~ 2月 4日(木)	(1W)
		※2/5(金)授業・定期試験の予備日	
	[セメスター]	1月29日(金)	(1D)
	専門科目再試験	2月15日(月) ~ 2月19日(金)	(1W)
	全学共通授業科目再試験	3月 3日(水) / 3月 4日(木)	(2D)
		※3/5(金)授業・定期試験の予備日	
2年次	ガイダンス	4月 3日(金) 9:30 ~	(1D)
	前期授業	4月 6日(月) ~ 7月17日(金)	(15W)
		※4/29(水)水曜日の授業実施日	
	定期試験	7月20日(月) ~ 7月31日(金)	(2W)
	夏休み	8月 1日(土) ~ 9月27日(日)	(8W)
	早期臨床実習1	9月28日(月) ~ 10月 2日(金)	(1W)
	後期授業	10月 5日(月) ~ 2月 1日(月)	(16W)
	冬休み	12月26日(土) ~ 1月 4日(月)	(1W)
	定期試験	2月 2日(火) ~ 2月12日(金)	(2W)
	再試験	2月22日(月) ~ 3月 5日(金)	(2W)
3年次	ガイダンス	4月 3日(金) 16:00 ~	(1D)
	前期授業	4月 6日(月) ~ 7月31日(金)	(17W)
		※4/29(水)水曜日の授業実施日	
	夏休み	8月 1日(土) ~ 9月 6日(日)	(5W)
	定期試験	9月 7日(月) ~ 9月18日(金)	(2W)
	後期授業	10月 1日(木) ~ 2月15日(月)	(18W)

早期臨床実習 2	10月26日(月) ~ 10月30日(金)	(1W)
冬休み	12月24日(木) ~ 1月4日(月)	(2W)
定期試験	2月16日(火) ~ 2月19日(金)	(1W)
再試験	2月22日(月) ~ 3月5日(金)	(2W)
4年次 ガイダンス	4月3日(金) 14:00~	(1D)
臨床医学講義3(ユニット3)	4月6日(月) ~ 6月1日(月)	(7W)
臨床医学講義3(ユニット4)	6月2日(火) ~ 7月16日(木)	(6W)
症候別チュートリアル	7月17日(金) ~ 7月30日(木)	(2W)
夏休み	8月1日(土) ~ 8月23日(日)	(4W)
症候別チュートリアル	8月24日(月) ~ 10月15日(木)	(7W)
CBT(共用試験)	10月22日(木) (予定)	(1D)
臨床医学基本実習	10月26日(月) ~ 12月11日(金)	(6W)
IPW関連セミナー	11月24日(火)	(1D)
IPWチュートリアル	11月30日(月) ~ 12月4日(金)	(1W)
OSCE(共用試験)	12月13日(日) (予定)	(1D)
冬休み	12月26日(土) ~ 1月3日(日)	(2W)
地域社会医学実習	1月5日(火) ~ 1月14日(木)	(2W)
白衣式	1月4日(月) (予定)	(1D)
BSL	1月18日(月) ~ 3月12日(金)	(8W)
5年次 臨床配属実習 (学内BSL)	4月6日(月) ~ 5月1日(金)	(4W)
	5月11日(月) ~ 7月31日(金)	(12W)
	8月31日(月) ~ 11月20日(金)	(12W)
夏休み	8月1日(土) ~ 8月30日(日)	(4W)
冬休み	12月26日(土) ~ 1月10日(日)	(2W)
科目別試験	12月7日(月) ~ 12月25日(金)	(3W)
関連病院実習	1月12日(火) ~ 3月5日(金)	(8W)
科目別試験再試験	3月8日(月) ~ 3月19日(金)	(2W)
6年次 個別計画実習	4月6日(月) ~ 5月22日(金)	(7W)
	6月8日(月) ~ 7月24日(金)	(7W)
	9月7日(月) ~ 10月16日(金)	(7W)
個別計画実習発表会	10月23日(金)	
全人医学・ユニオンレクチャー	5月25日(月) ~ 6月5日(金)	(2W)
夏休み	7月27日(月) ~ 9月6日(日)	(6W)
卒業時OSCE	11月1日(日)	
卒業時OSCE再試験	12月22日(火) (予定)	
卒業試験	11月11日(水) ~ 11月12日(木)	
卒業試験再試験	12月9日(水)	
医師国家試験説明会	10月下旬	
医師国家試験	2月中旬	

2. 行事

令和2年	4月3日(金)	入学式
	4月6日(月)	新入生健康診断
	6月5日(金)	学生(大学院生を含む)定期健康診断
	11月11日(水)	解剖体慰霊祭
令和3年	3月25日(木)	学位記授与式(卒業式)

シ ラ バ ス

(1 年次用)

神戸大学医学部医学科学生の皆さんへ
～皆さんが受ける教育のあらまし～

1. 教育方針について

神戸大学医学部医学科は、医学と医学教育方法の発展にあわせて、学生の皆さんがよりよい教育を受けられる様に、常にカリキュラム改革を行っています。最近では平成26年度にカリキュラムを改訂し、次のような神戸大学医学部医学科学生が卒業時に身につけておくべき能力（コンピテンス）を定めています。ここに挙げてある能力を身につけるべく6年間修練に励んでください。

神戸大学医学部医学科学生が卒業時に身につけておくべき能力

I：礼儀・態度

神戸大学医学部医学科の卒業生は

患者や医療従事者等に対して良好な人間関係を構築することができる。

II：科学的探究心

神戸大学医学部医学科の卒業生は

生命科学に対する探究心と感性をもち、科学的思考能力と創造性をそなえている。

III：知識と技能

神戸大学医学部医学科の卒業生は

基礎と臨床のバランスのとれた知識をもち、的確な臨床推理能力を有している。

病態を理解し、それに即した基本的技能を修得している。

IV：倫理観

神戸大学医学部医学科の卒業生は

確固とした倫理観をもちつつ、周囲との連携の中で自己を変革し続けることができる。

V：向上心

神戸大学医学部医学科の卒業生は

自ら目標を設定し、課題を抽出し、解決に向けた取り組みができる。

長期的な展望にたち、有為の人材たらしとする気概をもっている。

VI：リーダーシップ

神戸大学医学部医学科の卒業生は

多様性を受容できる人間性をもち、リーダーシップを発揮して地域社会に貢献できる。

VII：国際性

神戸大学医学部医学科の卒業生は

広範な情報を収集・分析することができ、適切な議論ができる語学力と国際性を身につけている。

学部学生教育を通じた人材育成は、大学院教育と並んで大学の最も重要な役割です。特に、卒業後直ちに国民の生命と健康を守る立場に立つ医師を養成する医学部教育は、社会的責任が極めて大きいと言えます。学生の皆さんには、10年後の日本の医学と医療を支える人材として、社会から大きな期待が掛けられています。入学・進級に当たり、医師になりたいと願った初心を忘れず、勉学に励んで下さい。孟母断機の戒めを心掛けて下さい。

本医学科教員一同は、学生の皆さんの教育に努力を惜しみません。学生の皆さんも、私たち教員と教育機器・施設を最大限且つ積極的に活用し、勉学とクラブ活動に励んでください。さらに、生涯にわたる良き友人を得て、互いに切磋琢磨し、卒業した際に、有意義で楽しい学生生活だったと振り返れるように、もう1年間神戸大学医学部生でいたかったと思えるような（規則上は12年間在籍できますが、できれば全員6年間で卒業して下さい。）、充実した学生生活を送って下さい。また、自分たちが受ける教育について、ああして欲しい、こうして欲しいという要望を積極的に寄せて下さい。もちろんすべての要望が実現できるわけではありませんが、一つずつ確実に改善し、後輩達の勉学環境が先輩よりも改善していると評価してもらえるよう、教員と学生が力を合わせて頑張りましょう。

2. 医学科で受ける教育カリキュラムの概要

2-1) 1年次～3年次：基礎医学の勉強

1年次では、鶴甲第1キャンパスにおいて基礎教養科目や総合教養科目、外国語科目などの全学共通教育を受けます。それに加えて、医学科（一部は保健学科との合同実施）が担当する医学への導入教育として「初期体験臨床実習」及び「細胞生物学」、「医学序説」などが用意されています。

2年次以降は、楠地区の医学部医学科学舎に於いて医学専門教育を受けます。2、3年次の2年間は解剖学、生理学、病理学などの基礎医学科目を学びますが、主に講義と実習形式で勉強します。どの科目も主に定期試験により成績評価と進級判定が行われます。

2-2) 基礎医学研究体験カリキュラム

さて、机の前に座って一方通行で受ける講義は時としてつまらなく感じられ、集中力も続きにくく、眠たくなるものです。入学早々にそんなことで、医学を学ぶ意欲が削がれてしまっては元も子もありません。そこで医学科では、学生の皆さんが自分で手を動かして実験を行い、新しい発見をする喜びを知ってもらえる機会をカリキュラムの中に設けています。すなわち、基礎医学研究室で先生方と身近に接して研究活動を体験し、さらに意欲がある学生さんには自ら研究を行う機会を設ける目的で、1年次に「新医学研究コース」を用意しています。平成19年度入学生からは、2年次に全員必修の「基礎配属実習」を行い、新医学研究コースに引き続いて基礎医学研究を行う機会を設けています。私たち教員は、基礎医学科目履修中に基礎医学研究を実際に体験することで、皆さんの基礎医学研究に対する興味や関心を引き出せると期待しています。さらに6年次の個別計画実習中に基礎医学研究を選択することができますので、臨床医学を学ぶ4、5年次の時期は時間の余裕がないかもしれませんが、出来る範囲で頑張れば、ほぼ6年間一貫して研究に参加出来ます。優れた医学研究は、皆さんのような若い頭脳から生まれています。教員と深夜まで頑張れば、皆さんの名前入りで、一流の国際医学雑誌の表紙を飾る研究成果が得られるかも知れません。基礎医学研究に興味のある方は積極的に参加して下さい。

2-3) 3年次後期～6年次：臨床医学の勉強

3年次後期以降は臨床医学科目もあわせて履修します。注意して欲しいことは、臨床医学科目の教育方法は、基礎医学科目とは大きく異なっていることです。それは、4年次で行われる「チュートリアル」に代表される方法で、講義で一方向的に知識を与えられるのではなく、与えられた課題について学生の皆さん自らが色々な資料を調べ、グループの仲間と討論し、問題解決方法を見つけて行くという、課題探究型・問題解決型の学習（Problem-based learning）をすることです。4年次末には、全国の医学生全員が受験するCBT（computer-based test）及び客観的臨床能力試験（OSCE）の受験が本学でも義務づけられています。この試験により、自分の医学修得度が日本の全医学生の中でどの水準にあるのかがはっきりと分かってしまいます。冷汗三斗の思いをしないよう、日頃から心掛けましょう。

4年次末～5年次にかけて実施される学習方法はBSL（Bed side learning）といい、チュートリアル教育に準じたユニット構成を基本とした方法で、附属病院の患者さんを症例として臨床医学を学んでいく方法です。この期間を通して皆さんが身につけた臨床医学の知識と基本的診察能力の習得度は、BSL終了後に科目別試験により評価され、進級判定が行なわれます。

5年次末～6年次における学習方法は関連実習及び個別計画実習です。指導教員と相談しながら、学外の一般病院や医学部附属病院で臨床実習を行います。秋期には医師国家試験形式による卒業試験及び、全国の医学生が対象の臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）を実施し、卒業判定を行います。

どの学年でも、学生の皆さんの課題探求能力、問題解決能力の習得を目指した教育方針を立てており、特に4年次以降は皆さん自身が積極的に学ぶ態度で臨まないと、膨大な臨床医学の知識と技能の習得は難しいのが現状です。毎日の継続した学習が最も重要です。（現在、医学部医学科では、新カリキュラムへの移行を順次進めています。こちらに書かれている内容は、1年次生が受講する予定のカリキュラムについてです。2年次生～6年次生におかれましては、昨年度以前のシラバスをご確認下さい。）

2-4) 倫理教育および行動科学教育について

・行動科学教育のねらい

神戸大学医学部医学科卒業時コンピテン스에 I 礼儀態度、III 知識と技能、V 向上心を掲げている。特に、I の全てのコンピテンシーおよび III-4 の「人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる」を中心にすえ、人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶこと目標として、カリキュラムを作成している。この目標を達成する為に、具体的には、①人の行動、②行動の成り立ち、③動機付け、④ストレス、⑤生涯発達、⑥個人差、⑦対人関係と対人コミュニケーション、⑧行動変容における理論と技法などを、講義と実習を組み合わせることで6年間を通して学ぶプログラムとする。講義で各項目の知識を理解し、実習で知識を活用してより理解を深める形式を取る。

・倫理教育のねらい

神戸大学医学部医学科卒業時コンピテン서에 IV 倫理観「確固とした倫理観をもちつつ、周囲との連携の中で自己を改革し続けることができる」をかかげている。コンピテンシーとして、IV-1 「医療人としての倫理に関する基本的な知識を修得し、社会の変遷を踏まえつつ、常に自己の行動を律することができる。」、IV-2 「生命の尊厳を理解しつつ、研究倫理に関する基本的な知識を身につけて、それに沿って適切な研究活動を行うことができる。」、IV-3 「医療者として常に利益相反が生じる可能性を認識して適切に対処できる。患者のプライバシーを尊重して守秘義務を果たす」を挙げており、講義と実習を組み合わせることで、6年間を通して学ぶプログラムとする。講義で各項目の知識を理解し、実習で知識を活用してより理解を深める形式を取る。

2-5) 英語科目と海外派遣

本学部は「広い視野を持ち国際的に活躍しうる人材の育成」を目指していますので、学生の英語によるコミュニケーション能力、情報検索能力、文献読解能力の育成を重視しています。そのため、外国人研究員や留学経験を有する若手教員などの協力を得て、6年間を通じた英語教育カリキュラムを定めています。さらに、学生海外派遣事業として語学海外研修及び海外での臨床医学研修を実施しています。

語学研修は5年次の夏休みに、会話取得を目的とした約1ヶ月の海外研修を行い、6年次では個別計画実習において、米国、アジアその他の地域の医科大学・医学部に学生を派遣し、海外での臨床医学教育を実際に経験することが出来ます。これら海外派遣の費用の一部は医学科や一般社団法人神緑会などより補助されています。

海外派遣学生の選抜は5年次までの学業成績と英語能力で決定されますので、派遣を希望する学生の皆さんは、入学時から学業成績の向上と共に、英語能力を高めておいてください。

3. 進級要件

各年次毎に進級要件が定められており、厳密な進級判定が行われます。例外は認められませんので、日頃からの勉学の積み重ねが重要であると心掛けて下さい。

4. 学生生活の窓口

皆さんの学生生活全般に関して対応する窓口は、教員組織では教務学生委員会、職員は医学科教務学生係です。勉学、クラブ活動、友人関係、その他諸々の悩みや疑問点など、何でも気軽に相談してください。問題解決に最も適した教員あるいは職員が相談に乗ります。健康相談窓口として神緑会館に保健管理センター楠分室があります。幸いなことに、ここは医学部ですから、全診療科の医師が揃っています。

4-1) 医学科教務学生委員会委員名簿

※令和2年4月1日現在

委員氏名	教育研究分野	担当学年
委員長 河野 誠司	医学教育学	6年
副委員長 勝二 郁夫	感染制御学	2年
委員 仁田 亮	生体構造解剖学	1年
委員 古屋敷 智之	薬理学	2年
委員 内匠 透	生理学	3年
委員 榎本 秀樹	神経分化・再生分野	4年
委員 福本 巧	肝胆膵外科学	1年
委員 村上 卓道	放射線診断学	4年
委員 松本 理器	脳神経内科学	3年
委員 眞庭 謙昌	呼吸器外科学	5年
委員 児玉 裕三	消化器内科	5年
委員 中村 誠	眼科学	6年
委員 岡山 雅信	地域医療教育学	

担当学年はそれぞれ教務学生関係の相談窓口になります。

4-2) 医学科教務学生係 078-382-5205

授業科目の履修等について

1. 授業科目の区分及び履修について

本学部の授業科目は、学部規則に定められており、各授業科目名は神戸大学医学部規則別表第1イ医学科（学生便覧参照）に掲載しています。

授業の履修について、1年次の間は金曜日と後期の木曜日午後に楠キャンパス開講科目を履修し、それ以外は六甲台キャンパス開講科目を履修する事になります。

そのため進級に必要な六甲台キャンパス開講科目を単位修得できなかった場合は、留年になることもあり、または仮進級できた場合でも再履修が非常に困難になりますので注意してください。

また、六甲台キャンパス開講科目に関する情報は、六甲台キャンパスの掲示板等で掲示されますのでよく確認を行ってください。

卒業要件：次の区分にしたがって200単位を修得しなければなりません。

区 分												
基礎 教養 科目	総合 教養 科目	外国語科目		情報 科目	高度 教養 科目	専 門 科 目					総合 医学	総合 実習
		英 語	独・仏 語 中・露 語			転換 教育 科目	共通 専門 基礎 科目	基礎 医学	基礎・ 臨床 融合 科目	臨床 医学 チュ ー ト リ ア ル		
4	6	4	4	1	4	15	14	37	6	31	7	67

(注) 学生便覧の医学部規則別表第2イー1医学科を参照してください。

ただし、履修要件は、医学部医学科では、学年進行中に変更する場合がありますので、注意してください。

①基礎教養科目（全学共通授業科目）

生命科学系「医学」「保健学」「生物学」自然科学系「物理学」「化学」を除く授業科目から、4科目4単位を修得しなければなりません。

②総合教養科目（全学共通授業科目）

「生命科学A」「生命科学B」を除く授業科目から、6単位を修得しなければなりません。

③外国語科目（全学共通授業科目）

外国語第I（英語8科目4単位）及び外国語第II（独語，仏語，中国語，ロシア語のうちから同一言語で8科目4単位）を修得しなければなりません。外国語科目はクラス分けで定められたクラスの授業を履修しなければなりません。

④情報科目（全学共通授業科目）

情報基礎1単位を修得しなければなりません。

前期に単位修得できなかった場合は、後期に再履修する必要があります。

⑤高度教養科目

2年次以降に開講される所定の科目から4単位を選択して履修しなければなりません。

「英語アドバンスド・コース（1）～（4）」については、転換教育科目の「医学英語」をあらかじめ単位認定されている場合のみ履修可能となります。

⑥専門科目（転換教育科目）〔医学部開講授業科目〕

全科目（11科目15単位）を修得しなければなりません。

ただし、「医学英語1～4」については、英語外部試験（TOEFL-Itp等）の基準値以上のスコアを提出する事であらかじめ単位認定されます。

⑦専門科目（共通専門基礎科目）〔全学共通授業科目〕

13科目14単位を修得しなければなりません。

「心と行動」、数学系、物理学系、化学系及び生物系の授業科目から構成されており、理系科目は、2年次以降の専門科目を履修するための基礎的な科目からの積み重ね方式を取っています。（物理学の履修については2.の注意事項参照）

「心と行動」は医学科生のための開講科目ですので必ず単位修得するようにしてください。

⑧専門科目（基礎医学）〔医学部開講授業科目〕

全科目（11科目37単位）を修得しなければなりません。

⑨専門科目（基礎・臨床融合科目）〔医学部開講授業科目〕

全科目（3科目6単位）を修得しなければなりません。

⑩専門科目（臨床医学チュートリアル）〔医学部開講授業科目〕

全科目（5科目31単位）を修得しなければなりません。

⑪専門科目（総合医学）〔医学部開講授業科目〕

全科目（4科目7単位）を修得しなければなりません。

⑫専門科目（総合実習）〔医学部開講授業科目〕

全科目（8科目67単位）修得しなければなりません。

⑬専門科目（その他の科目）〔医学部開講授業科目〕

「新医学研究コース」は選択科目ですが、修得単位が他の所定の必修科目の単位に読み替えることができる科目ですので可能な限り履修してください。

⑭専門科目（選択科目）〔医学部開講授業科目〕

より深く医学研究を行うための科目です。研究分野の中から指導教員を選びテーマをもって実験的研究指導を受けます。

⑮健康・スポーツ科学実習基礎

その他必要と認める科目〔全学共通授業科目〕

この科目は、学生の自主的な学習に応えるための科目です。

履修することが出来ませんが、修得した単位は卒業要件単位に含まれません。

2. 履修手続きについて

授業科目の履修にあたっては、抽選登録を必要とする基礎教養科目，総合教養科目，選択必修科目である物理学※，それ以外の選択科目を除き，履修する必要がある授業科目は大学で事前に登録します。

よって，事前に登録されている科目以外で，履修を希望する科目があれば，各自で指定された期間中にWEB登録を行ってください。

また，所定の「履修登録一覧表」を作成し，作成した「履修登録一覧表」と履修登録を終えた各自の教務システムWEB履修登録画面が同一内容であるかよく確認した後，「履修登録一覧表」を必ず下記2)①に記載されている所定の期間内に医学科教務学生係に提出してください。

※物理学の選択必修に関する注意事項：

高等学校で物理を履修した者は「物理学入門」以外の2科目2単位，高等学校で物理を履修していない者は「物理学入門」を含む3科目から2単位を選択すること。

1) 抽選登録について

基礎教養科目及び総合教養科目については，前期，後期共に，事前に抽選登録を行う必要があります。但し，新1年生は第2Q開講科目からの履修になります。

抽選登録に必要なアカウントは，前期「情報基礎」の第1回目授業時に配布されます。

また，登録の際は「アカウント」を利用し，教務情報システム利用の手引きの記載に沿って，抽選登録期間中に各自で登録することになります。

※期間中に抽選登録を忘れると，履修できなくなりますので注意してください。

2) 履修登録について

①履修登録期間及び履修登録一覧表提出期限

前期： 4月7日（火）9時～ 4月20日（月）17時

②「履修登録一覧表」提出場所：学務課医学科教務学生係

③「履修登録一覧表」の記載方法

所定欄に履修しようとする授業科目名，担当教員名，時間割コード等を記入し，提出してください。

④履修登録期間中はWEB上の教務情報システムにて履修内容を変更・追加出来ますが，必ず最終のWEB登録画面と同一のものが記載されている「履修登録一覧表」を提出するようにして下さい。（WEB画面上に登録されている科目が，その期に履修する科目となります。よって，医学科教務学生係に提出した履修登録一覧表に記載があるからといって，履修登録したことにはなりませんので，ご注意ください。）

⑤履修登録出来ていない科目については，たとえ授業を履修・受験しても無効となります。また，記載されている授業科目でも，異なる教員の授業科目を受験した場合は無効となります。

※後期の抽選登録，履修登録については，後期授業開始前に別途通知します。

★未確認から生じる不利益は，本人がその責を負うものとなります。

3) 再履修について

単位を修得しようとする授業科目で不合格になった場合は、次学期以降に改めて履修・受験しなければなりません。

その場合の履修登録は、各自で行うことになります。

ただし、全学共通授業科目及び転換教育科目については、科目によって、一定の条件を満たす場合に限り、再試験を行う場合があります。

4) 2年次以降の履修手続について

2年次以降の履修手続については、1年次の方法と異なります。

詳細については、2年次進級時のガイダンス時に通知します。

3. 試験及び成績について

1) 鶴甲第1キャンパスで行われるものは、学生生活案内の修学の手引き、「大学教育推進機構」のホームページ等で確認してください。

2) 医学科の専門科目については、このシラバスに掲載している専門科目試験内規等で確認してください。

4. 上級年次への進級について

医学部医学科では、そのほとんどが必修科目のため、上級年次への進級に関して「神戸大学医学部医学科における進級に関する申合せ」により進級の条件を定めています。

神戸大学医学部医学科における進級に関する申合せ (2020年度入学者)

神戸大学医学部規則（平成16年4月1日制定。以下「学部規則」という。）第7条第3項に基づき、医学部医学科における進級条件について次のとおり定める。

ただし、医学教育課程、カリキュラム等の改変があった場合は、進級条件についても変更することがある。

1. 第2年次への進級条件

- (1) 第1年次終了時において、学部規則別表第2のイ-1（以下「履修要件」という。）に定めるところに従い、次の単位数を修得すること。

基礎教養科目	4単位（備考1参照）
総合教養科目	6単位（備考1参照）
外国語科目	8単位（備考2参照）
情報科目	1単位
転換教育科目	10単位（備考3参照）
共通専門基礎科目	14単位（備考4参照）
合計	43単位

備考1 基礎教養科目及び総合教養科目の授業科目の未修得単位数が合計4単位以下で、かつ第2年次に鶴甲キャンパスに出向いて、すべて再履修可能な場合は、第2年次への仮進級を認める。

備考2 外国語科目の授業科目については、第2年次に鶴甲キャンパスに出向いて、再履修することが不可能なため、単位数を修得できなかった場合は第2年次に進級できない。

備考3 転換教育科目については、「神戸大学医学部医学科専門科目試験内規」（以下「試験内規」という。）の再試験に関する条項を適用し、第2年次への進級判定を行う。

転換教育科目については未修得単位数が合計2単位以下で、第2年次に再履修可能な場合は、第2年次への仮進級を認める。ただし、第2年次へ続く授業科目で第1年次に開講された授業は、必ず履修しておくこと。

備考4 共通専門基礎科目については未修得単位数が合計2単位以下で、第2年次に再履修可能な場合は、第2年次への仮進級を認める。

備考5 新医学研究コース（2単位）の修得単位は、転換教育科目（初期体験臨床実習、コミュニケーション学、細胞生物学1、2を除く。）又は共通専門基礎科目の修得単位数として読み替えることができる（未修得単位数が合計2単位までであれば、複数の科目であったとしても読み替えることができる）。

2. 第3年次への進級条件

- (1) 全学共通授業科目（基礎教養科目、総合教養科目、外国語科目、情報科目、共通専門基礎科目）の必要修得単位数及び第1年次に開講された転換教育科目については、第2年次終了時まですべて修得すること。

- (2) 第2年次に開講される基礎医学、転換教育科目及び基礎・臨床融合科目の授業科目の試験については試験内規を適用し、第3年次への進級判定を行う。

判定の結果、不合格科目（医学英語1及び2を含む）が2科目までであれば仮進級を認める。ただし、早期臨床実習1が不合格の場合は、仮進級を認めない。

(3) 基礎配属実習1については別に定めるところにより進級を判定する。

3. 第4年次への進級条件

(1) 第3年次に開講される転換教育科目、基礎医学、基礎・臨床融合科目、臨床医学チュートリアル、総合医学、総合実習の必修科目の合否に基づき、第4年次への進級を判定する。

判定の結果、不合格科目が1科目までであれば、仮進級を認める。

ただし、以下の項目に該当する場合は、進級および仮進級を認めない。

- ・ 法医学、薬理学および臨床薬理学、公衆衛生学、病理学について、実習部分やPBLコースが不合格の場合
- ・ 臨床医学講義1・2のいずれかが不合格の場合
- ・ 高度教養科目を4単位以上修得していない場合
- ・ 早期臨床実習2が不合格の場合

(2) 転換教育科目、基礎医学、基礎・臨床融合科目、総合医学（地域医療学を除く）の試験については試験内規を適用する。地域医療学、早期臨床実習2、臨床医学講義1・2の成績評価方法等については別途定める。

(3) 下記対象試験科目のうち、定期試験における得点が60点に満たない試験科目が3科目以上あるときは、その年度内の転換教育科目、基礎医学、基礎・臨床融合科目、総合医学（地域医療学を除く）科目の再試験受験資格を失う。

〔対象試験科目〕

病理学、薬理学および臨床薬理学、公衆衛生学、法医学 計4試験科目

(4) 前記2.により仮進級した者については、第3年次終了時までには当該科目の修得および試験に合格すること。

4. 第5年次への進級条件

(1) 第4年次の臨床医学チュートリアル科目、臨床医学基本実習、地域社会医学実習の全ての科目を修得し、さらに、共用試験CBT及び共用試験OSCEの全試験に合格すること。

チュートリアル科目、共用試験CBT及び共用試験OSCEについては別に定めるところにより合否を判定する。

(2) 前記3により仮進級した者については、ベッドサイドラーニング開始時までには当該試験科目の試験に合格すること。

5. 第6年次への進級条件

(1) ベッドサイドラーニング、関連病院実習に合格すること。

ベッドサイドラーニングについては別に定めるところにより合否を判定する。

(2) ベッドサイドラーニングは臨床実習であり、全実習に出席することが必須である。

令和2年度入学者 授業配当表

授業科目の区分等	授業科目	単位	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
			前期	後期										
基礎教養科目 (選択必修)		4	4											
総合教養科目 (選択必修)		6	6											
外国語科目 (必修)	英語	4	4											
	独・仏・中・露語のいずれか1言語	4	4											
情報科目(必修)	情報基礎	1	1											
高度教養科目 (4単位を選択必修)	英語アドバンスド・コース(1)	1			1									
	英語アドバンスド・コース(2)	1				1								
	英語アドバンスド・コース(3)	1					1							
	英語アドバンスド・コース(4)	1						1						
	地域医療システム学	1				1								
	行動科学	1				1								
	臨床研究システム論	1						1						
	医学史と医学概論	2						2						
専 門 科 目	転換教育科目 (必修)	初年次セミナー	1	1										
		初期体験臨床実習	1	1										
		現代医療と生命倫理	2	2										
		医学序説	2	2										
		細胞生物学1	2	2										
		細胞生物学2	2		2									
		コミュニケーション学	1			1								
		医学英語1	1				1							
		医学英語2	1					1						
		医学英語3	1						1					
		医学英語4	1							1				
専 門 科 目	共通専門 基礎科目 (必修)	心と行動	2	2*										
		微分積分1	1	1*										
		微分積分2	1	1										
		微分積分3	1			1*								
		微分積分4	1			1								
		物理学入門	1	1*										
		力学基礎1	1	1*										
		力学基礎2	1	1										
		基礎物理化学1	1	1*										
		基礎物理化学2	1	1										
		基礎有機化学1	1			1*								
		基礎有機化学2	1			1								
		生物学各論E1	1	1*										
		生物学各論E2	1	1										

授業科目の区分等	授業科目	単位	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
			前期	後期										
専 門 科 目	基礎医学 (必修)	解剖学	6		6									
		組織学	3		3									
		生化学	4		4									
		生理学	5			5								
		情報科学	2			2								
		生物統計学	2			2								
		微生物学・免疫学	4			4								
		病理学	5				5							
		公衆衛生学	3					3						
		法医学	2					2						
	発生学	1			1									
	基礎・臨床 融合科目 (必修)	イメージング	1			1								
		臨床遺伝学・腫瘍学	1				1							
		薬理学および臨床薬理学	4					4						
	臨床医学 チュートリアル (必修)	臨床医学講義1	8					8						
		臨床医学講義2	4					4						
		臨床医学講義3	14						14					
		症候別チュートリアル	4							4				
		IPW	1								1			
	総合医学 (必修)	地域医療学	1	1										
		臨床医学総論(内科学・外科学)	2				2							
		診断学総論	3				3							
		全人医学・ユニオンレクチャー	1										1	
	総合実習 (必修)	基礎配属実習1	4			4								
		早期臨床実習1	1			1								
		早期臨床実習2	1					1						
		地域社会医学実習	1							1				
臨床医学基本実習		2							2					
ベッドサイドラーニング		36									36			
個別計画実習		18									18			
関連病院実習		4										4		
その他の科目	新医学研究コース	2	2											
選択科目	医学研究(1)	4					4							
	医学研究(2)	4						4						
	医学研究(3)	4								4				
	医学研究(4)	4										4		
	基礎配属実習2	1				1								

卒業必要単位数 200 単位

注：共通専門基礎科目において前期に「*」を付している授業科目は、第1クォーターに開講し、付していない授業科目は、第2クォーターに開講する。

また、後期に「*」を付している授業科目は、第3クォーターに開講し、付していない授業科目は、第4クォーターに開講する。

令和2年度前期 1年次 時間割表(週別)

※全学共通授業科目等も含めた時間割表については、ガイダンス時に配布した時間割表を参照

曜	年月日	週	1時限 8:50-10:20	2時限 10:40-12:10	3時限 13:20-14:50	4時限 15:10-16:40	
月	02/04/13	1					
	02/04/20	2					
	02/04/27	3					
	02/05/04	4	休日(みどりの日)				
	02/05/11	5					
	02/05/18	6					
	02/05/25	7					
	02/06/01	8					
	02/06/08	9					
	02/06/15	10					
	02/06/22	11					
	02/06/29	12					
	02/07/06	13					
	02/07/13	14		細胞生物学1(大講義室)			
	02/07/20	15					
	02/07/27	16					
	02/08/03	17					
火	02/04/07	1					
	02/04/14	2					
	02/04/21	3					
	02/04/28	4					
	02/05/05	5	休日(こどもの日)				
	02/05/12	6					
	02/05/19	7					
	02/05/26	8					
	02/06/02	9					
	02/06/09	10					
	02/06/16	11					
	02/06/23	12					
	02/06/30	13					
	02/07/07	14					
	02/07/14	15	木曜日の授業日				
	02/07/21	16					
	02/07/28	17					
02/08/04	18						
水	02/04/08	1					
	02/04/15	2					
	02/04/22	3					
	02/04/29	4					
	02/05/06	5	休日				
	02/05/13	6					
	02/05/20	7					
	02/05/27	8					
	02/06/03	9					
	02/06/10	10					
	02/06/17	11					
	02/06/24	12					
	02/07/01	13					
	02/07/08	14					
	02/07/15	15					
	02/07/22	16					
	02/07/29	17					
02/08/05	18	第2Q授業・試験の予備日					
木	02/04/09	1					
	02/04/16	2					
	02/04/23	3					
	02/04/30	4					
	02/05/07	5					
	02/05/14	6					
	02/05/21	7	月曜日の授業日				
	02/05/28	8					
	02/06/04	9					
	02/06/11	10					
	02/06/18	11					
	02/06/25	12					
	02/07/02	13					
	02/07/09	14					
	02/07/16	15					
	02/07/23	16	休日(海の日)				
	02/07/30	17					
金	02/04/10	1		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/04/17	2		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/04/24	3		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/05/01	4		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/05/08	5		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/05/15	6		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/05/22	7		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/05/29	8		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/06/05	9	第1Q授業・試験の予備日				
	02/06/12	10		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/06/19	11		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/06/26	12		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/07/03	13		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/07/10	14		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/07/17	15		細胞生物学1(大講義室)	医学序説(B講義室)		
	02/07/24	16	休日(スポーツの日)				
	02/07/31	17			医学序説(B講義室)		

* 初期体験臨床実習 9月14日(月)~9月18日(金)

* 地域医療学 9月30日(水) 地域医療活性化センター(多目的研修室・セミナー室)

令和2年度後期 1年次 時間割表(週別)

※全学共通授業科目等も含めた時間割表については、ガイダンス時に配布した時間割表を参照すること。

※午前は、全学の授業時間帯、午後は医学部の授業時間帯

曜	年月日	週	1時限 8:50-10:20	2時限 10:40-12:10	4時限 13:20-14:20	5時限 14:30-15:30	6時限 15:40-16:40	
月	02/10/05	1						
	02/10/12	2						
	02/10/19	3						
	02/10/26	4						
	02/11/02	5						
	02/11/09	6						
	02/11/16	7						
	02/11/23	8	休日					
	02/11/30	9						
	02/12/07	10						
	02/12/14	11						
	02/12/21	12						
	03/01/11	13	休日					
	03/01/18	14						
	03/01/25	15						
	03/02/01	16						
火	02/10/06	1						
	02/10/13	2						
	02/10/20	3						
	02/10/27	4						
	02/11/03	5	休日					
	02/11/10	6						
	02/11/17	7						
	02/11/24	8						
	02/12/01	9						
	02/12/08	10						
	02/12/15	11						
	02/12/22	12						
	03/01/05	13	月曜日の授業日					
	03/01/12	14						
	03/01/19	15						
	03/01/26	16						
	03/02/02	17						
水	02/10/07	1						
	02/10/14	2						
	02/10/21	3						
	02/10/28	4						
	02/11/04	5						
	02/11/11	6						
	02/11/18	7						
	02/11/25	8						
	02/12/02	9						
	02/12/09	10						
	02/12/16	11						
	02/12/23	12						
	03/01/06	13						
	03/01/13	14	月曜日の授業日					
	03/01/20	15						
	03/01/27	16						
	03/02/03	17						
木	02/10/01	1						
	02/10/08	2				コミュニケーション学	コミュニケーション学	
	02/10/15	3						
	02/10/22	4						
	02/10/29	5						
	02/11/05	6				コミュニケーション学	コミュニケーション学	
	02/11/12	7	火曜日の授業日					
	02/11/19	8						
	02/11/26	9						
	02/12/03	10						
	02/12/10	11				コミュニケーション学	コミュニケーション学	
	02/12/17	12						
	02/12/24	13						
	03/01/07	14						
	03/01/14	15				コミュニケーション学	コミュニケーション学	
	03/01/21	16						
	03/01/28	17						
03/02/04	18							
金	02/10/02	1		細胞生物学2(大講義室)	細胞生物学2(13:30-14:30)			
	02/10/09	2		細胞生物学2(大講義室)				
	02/10/16	3		細胞生物学2(大講義室)				
	02/10/23	4		細胞生物学2(大講義室)				
	02/10/30	5		細胞生物学2(大講義室)				
	02/11/06	6		細胞生物学2(大講義室)				
	02/11/13	7		細胞生物学2(大講義室)				
	02/11/20	8		細胞生物学2(大講義室)				
	02/11/27	9	第3Q授業・試験の予備日					
	02/12/04	10		細胞生物学2(★第1講堂)				
	02/12/11	11		細胞生物学2(大講義室)				
	02/12/18	12		細胞生物学2(大講義室)				
	02/12/25	13		細胞生物学2(大講義室)				
	03/01/08	14		細胞生物学2(大講義室)				
	03/01/15	15		細胞生物学2(大講義室)				
	03/01/22	16		細胞生物学2(大講義室)				
	03/01/29	17		細胞生物学2(大講義室)				
	03/02/05	18	第4Q授業・試験の予備日					

科目名：初年次セミナー（1単位）

項目名	内容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役職名	医学教育学 特命教授 河野 誠司
	連絡方法	TEL: 078-382-6599 E-mail: sjkawano@kobe-u. ac. jp
担当教員	役職名	膜動態学 教授 匂坂 敏朗
	役職名	感染制御学 教授 勝二 郁夫
	役職名	災害救急医学 教授 小谷 譲治
	役職名	医学教育学 特命講師 小林 成美
授業のテーマ	大学とはどんなところか、また神戸大学医学部医学科でこれから大学生・医学生として学修するために必要な事項を取り扱う。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学生として、また医学科生として今後の学修に係る心構えを醸成する。 ・BSL(ベーシック・ライフ・サポート)講習をうけ、基本的蘇生術ができる。 ・医学研究を実施する際に必要な倫理的知識を修得する。 	
授業の概要と計画	<p>神戸大学生として、また人の命に直接関わる医師を養成する医学部学生としての認識を持つように、神戸大学初年次セミナー共通教材を参考に作成した医学科独自の教材により、医学科の歴史や今後の学修に係る心構えを講義として実施する。</p> <p>従来から医学科は、宿泊を伴う新入生合宿を、医学科生として心構えを学修すること、クラブ勧誘、上級生、同級生との交流促進を目的として行っており、初年次セミナーについてもより効果的に行うため合宿と並行して実施する。</p> <p>また、臨床研究の基本を理解し、臨床研究を実施する際に必要な最低限の知識を得ることを目的として、一般財団法人公正研究推進協会 (APRIN) による APRIN eラーニングプログラム (eAPRIN) JST事業受講者コース(1) (生命医科学系) を受講する。</p>	
成績評価方法	<p>評価の要件：全ての講義・BLS(ベーシック・ライフ・サポート)実習に出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BLS(ベーシック・ライフ・サポート)を救急部医師の指導の下に行い、修得できたかを判定する。 ・eAPRINを受講し、修了証を医学部学務課医学科教務学生係に提出すること。(提出期限等は別途指示する) 	
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・BLS(ベーシック・ライフ・サポート)ができるようになったか。 ・eAPRINを修了したか。 	
履修上の注意 (関連科目情報)	新入生合宿と並行して授業を実施するため、新入生合宿には必ず参加すること。	
事前・事後学修	特にありません。	
オフィスアワー・ 連絡先	<p>本授業に関する問い合わせは、医学科教務学生係に連絡してください。</p> <p>時間：平日8:30～17:15 E-mail: kyomu1@med. kobe-u. ac. jp TEL: 075-382-5205</p>	
学生へのメッセージ	医学部教員との交流の時間があるので、語り合しましょう。	
教科書	随時配布予定	
参考書・参考資料等	随時配布予定	
授業における使用言語	日本語	

科目名：初期体験臨床実習（1単位）

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	内科系講座（薬剤学分野） 教授 矢野 育子
	連絡方法	TEL：078-382-6640 E-mail：iyano@kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 職 氏 名	内科系講座（薬剤学分野） 教授 矢野 育子
	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（医学教育学分野 医学教育学部門） 特命教授 河野 誠司
	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（地域医療ネットワーク学分野） 特命教授 出口 雅士
	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（地域医療ネットワーク学分野） 特命教授 柿木 章伸
	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（地域医療ネットワーク学分野） 特命教授 鈴木 知志
	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（地域医療ネットワーク学分野） 特命教授 上田 佳秀
	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（医学教育学分野 地域医療支援学部門） 特命教授 見坂 恒明
担当教員 (学部外)	役 職 氏 名	神戸大学医学部保健学科 教授 石井 豊恵
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	神戸薬科大学薬学部 教授 坂根 稔康
授業のテーマ	<p>本学医学部医学科・保健学科、神戸薬科大学薬学部の学生で混成チームを形成し、相互交流をはかりながら、保健医療の実践現場のスタッフや患者から学ぶとともに、学びを共有し今後の実習に対する意欲、主体性を強化し、チーム医療の重要性に気づく。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者中心の医療について、患者・家族の思いや考えを述べることができる。 2. 施設内ケア・サービスについて、その「ひと」が必要なケア・サービスは何か、どのような職種が関わっているかを知ることができる。 3. それぞれの施設の目的や社会的役割について理解すると共に、チーム医療における各専門職の役割・協働の重要性について、グループでの共有、合意にもとづく発表ができる。 4. この実習を通じて、医学・保健学・薬学・医療に取り組む心構えを養い、専門科目の学習への動機づけとし、これから専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。 5. 教員、医療現場の指導者など、多くの人々との人間的ふれあいを通じて、専門職の社会的使命、心構え、態度、知識および技術の習得の重要性を認識し、自己の学習課題を述べることができる。 	

授業の概要と計画	<p>本学医学部医学科・保健学科、神戸薬科大学の学生混成グループで、保健医療の実践現場ならびにそで行われているチーム医療を見学する。見学実習をふまえて、班別ディスカッションを行い、合同発表会において、討論内容を発表し、質疑応答を行う。また、患者会代表者による講義を受ける。専攻特化型実習では、神戸大学医学部附属病院の各診療科において診療の実際を体験する。</p> <p>開講時期：令和2年9月14日（月）～18日（金） 14日（月） 午前：オリエンテーション・チームビルディング演習・班別オリエンテーション 午後：患者中心の医療について（患者会代表者による講義） 場所：神戸薬科大学</p> <p>15日（火）・16日（水） チーム医療の実際 【混成チーム：医学科・保健学科・薬科大混成で1班7～8名】 場所：大学病院及び臨床実習施設</p> <p>17日（木） 専攻特化型実習（神戸大学附属病院）</p> <p>18日（金） 午 前：班別ディスカッション（神戸薬科大学） 午 後：合同発表会（神戸薬科大学）</p> <p>※詳細については、別途、実習要項を7月中旬頃配布予定です。</p>
成績評価方法	授業への参加度（授業中の発言、最終発表会の内容）30%、実習施設や専攻特化型実習のフィードバック30%、レポート40%で評価する。
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者中心の医療について、患者・家族の思いや考えを述べているか。 2. 施設内ケア・サービスについて、その「ひと」が必要なケア・サービスは何か、どのような職種が関わっているかを知ることができているか。 3. それぞれの施設の目的や社会的役割について理解すると共に、チーム医療における各専門職の役割・協働の重要性について、グループでの共有、合意にもとづく発表ができているか。 4. この実習を通じて、医学・保健学・薬学・医療に取り組む心構えを養い、専門科目の学習への動機づけとし、これから専門的学習に臨む上での自己の考えを述べているか。 5. 教員、医療現場の指導者など、多くの人々との人間的ふれあいを通じて、専門職の社会的使命、心構え、態度、知識および技術の習得の重要性を認識し、自己の学習課題を述べているか。
履修上の注意 （関連科目情報）	病院見学では白衣及び実習に相応しい服装、靴、名札を着用し、医療を学ぶ学生として節度ある行動で臨むこと。
事前・事後学修	事前学修：チーム医療や医療の専門職の役割について学習しておくこと。 事後学修：講義や実習、演習・討論で疑問に思ったことについて調べ、学習を深めること。
オフィスアワー・連絡先	本授業に関する問い合わせは、医学科教務学生係に連絡してください。 E-mail：kyomu1@med.kobe-u.ac.jp TEL：078-382-5206
学生へのメッセージ	混成学生チームの一員として、積極的に参加してください。
今年度の工夫	特になし
教科書	実習要項等、必要時に資料を配布します。
参考書・参考資料等	特になし
授業における使用言語	日本語
キーワード	初期体験、ヒューマンケアリング、生命・医療倫理、チーム医療、患者中心、ケア・サービス、多職種協働

開講科目名	現代医療と生命倫理				
担当教員	森岡 裕香、古和 久朋、塩谷 英之、木戸 良明、秋末 敏宏、柱本 照、茶谷 直人、戸田 まどか、齋藤 いずみ、橋本 健志、伊藤 光宏、山下 輝夫、渡邊 和誉	開講区分	単位数		
		前期	1.0単位		
ナンバリングコード	M1NS111	曜日・時限	火3	時間割コード	1M305

授業のテーマ

医学と医療は、人を身体と心の総体であることを知り、その健康の保持と増進を図り、疾病を予防し、病気に陥ったときはそれを治癒・軽減を図ることを目的としている。医学と医療は社会の中にあり、人を対象としている。社会は安全で安心な、かつ質の高い医学と医療を期待しているが、それ故、厳しい目で医学と医療の実践者を見ている。今日ほど医学と医療の倫理が問われていることはない。本講義では、医学と医療における患者の権利について、みなさんとともに考えることを目的とします。

授業の到達目標

現代の医療を理解するために不可欠な様々な医療環境と問題点を認識し、医療従事者としての基本的な態度と人格を形成する自己努力を実現することを目標とする。

授業の概要と計画

- (1) 4月7日(火) 「再生医療」保健学研究科教授 柱本照
 - (2) 4月14日(火) 「看護と生命倫理：命の誕生と生命倫理のはざままで」保健学研究科教授 齋藤いずみ
 - (3) 4月21日(火) 「人の死の定義と脳死判定の実際」保健学研究科教授 古和久朋
 - (4) 4月28日(火) 「疾患感受性遺伝子」保健学研究科教授 木戸良明
 - (5) 5月12日(火) 「これからの医療職を目指す人へ」兵庫県健康福祉部参事 山下輝夫
 - (6) 5月19日(火) 「移植医療と生命倫理」兵庫アイバンク事務局長 渡邊和誉
 - (7) 5月26日(火) 「人を対象とする医学系研究の倫理審査」保健学研究科教授 秋末敏宏
 - (8) 6月9日(火) 「インフォームド・コンセント(1) 「成立経緯」人文学研究科教授 茶谷 直人
 - (9) 6月16日(火) 「インフォームド・コンセント(2) 倫理的意義の考察」人文学研究科教授 茶谷 直人
 - (10) 6月23日(火) 「医学の進歩における動物実験の貢献と実験動物福祉」医学研究科附属動物実験施設准教授 森岡裕香
 - (11) 6月30日(火) 「こころの病と臨床倫理」保健学研究科教授 橋本健志
 - (12) 7月7日(火) 「Evidence-Based Medicine」保健学研究科教授 塩谷英之
 - (13) 7月21日(火) 「新生児医療と看護」保健学研究科助教 戸田まどか
 - (14) 7月28日(火) 「リスクを伴う検査や治療の考え方」保健学研究科教授 伊藤光宏
- *令和2年度はオリンピック開催に伴う学年暦の変更により14回の講義となります。

成績評価方法

講義内容に関するレポートを課し合否を判定します。最終講義終了後、一課題を自由に選択し、8月3日(月曜日)午前9時から8月7日(金曜日)午後5時の期間に、鶴甲第一キャンパスK棟レポート提出ボックスに提出すること。レポートの字数は1000字以上1200字以内とします。レポート内容に剽窃行為などの不正が認められた場合、単位は認定されないの留意して下さい。学科、専攻、学籍番号、氏名の記載が無いレポートは評価対象とならないので、提出時に充分確認すること。

成績評価基準

提出されたレポートは、選択した課題ごとに各講義担当者が100点満点で評価します。レポートの内容から講義への理解が乏しいと判断された場合、担当講師から直接の指導やレポートの再提出を課す場合があります。

履修上の注意(関連科目情報)

オムニバス形式の講義ですので、準備学習は不要です。講義資料は講師が持参して配布する場合と、事前にBeefに掲示される場合があります。受講に際しては必ずBeefを確認し、必要に応じてパソコンを持参して下さい。

事前・事後学修

各担当者が配布する講義資料をもとに、復習に時間を取ってください

オフィスアワー・連絡先

柱本(単位責任者)；随時。078-796-4544またはhash@kobe-u.ac.jpにて事前にアポイントを取ってください。

学生へのメッセージ

医学倫理について過去の歴史をたどり、医学と医療の社会的な位置づけについて思いを巡らし、医療人として成長する糧としよう。

今年度の工夫

オムニバス形式として、各講師の専門分野の視点から現代医療と医療倫理について講義をする。また、臨床の実地で活動する講義担当者の枠を増やすことで、より現代医療の実情が反映できる講義となるよう工夫しました。

教科書

なし。講義資料は講師が持参して配布する場合と、事前にBeefに掲示される場合とがあります。

参考書・参考資料等

なし。講義資料は講師が持参して配布する場合と、事前にBeefに掲示される場合とがあります。

授業における使用言語

日本語

キーワード

医学、医療、看護、医療倫理、生命倫理、動物倫理、説明と同意、医学の歴史、パソコン、実務。

科目名： 医学序説 (2単位)

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	外科系講座 (腎泌尿器科学分野) 教授 藤澤正人
	連絡方法	TEL: 078-382-6150 E-mail: masato@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 職 氏 名	外科系講座 (腎泌尿器科学分野) 教授 藤澤正人
	役 職 氏 名	外科系講座 (眼科学分野) 教授 中村 誠
	役 職 氏 名	内科系講座 (放射線診断学分野) 教授 村上 卓道
	役 職 氏 名	外科学講座 (整形外科学分野) 教授 黒田 良祐
	役 職 氏 名	外科学講座 (呼吸器外科学分野) 教授 眞庭 謙昌
	役 職 氏 名	外科学講座 (肝胆膵外科学分野) 教授 福本 巧
	役 職 氏 名	内科系講座 (小児科学分野) 教授 飯島 一誠
	役 職 氏 名	外科系講座 (麻酔科学分野) 教授 溝渕 知司
	役 職 氏 名	内科学講座 (糖尿病・内分泌・総合内科学分野) 教授 小川 渉
	役 職 氏 名	内科学系講座 (精神医学分野) 教授 曾良 一郎
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座 (薬理学分野) 教授 古屋敷 智之
	役 職 氏 名	微生物感染症学講座 (臨床ウイルス学分野) 教授 森 康子
	役 職 氏 名	外科学講座 (心臓血管外科学分野) 教授 岡田 健次
	役 職 氏 名	内科系講座 (皮膚科学分野) 教授 錦織 千佳子
	役 職 氏 名	外科系講座 (救急医学分野) 教授 小谷 穰治
役 職 氏 名	外科系講座 (耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野) 教授 丹生 健一	
授業のテーマ	診療や臨床・基礎医学研究に従事する教官が何を目指して、診療、研究に取り組んでいるかを講義する	
授業の到達目標	テーマごとに臨床と基礎の連関、これらの知識がベッドサイドでの医療にどのように投影されているかを総合的に理解し、今後の学習に対する動機づけとなること、また、将来の自分が見える貴重な時間にするを目標とする	
授業の概要と計画	講義による素材提供に引き続き、ゼミ形式、質疑応答を十分に取り入れ、双方向性に討議し理解を深めるよう授業を進めます	
	<p>1. 視覚と眼科学序論 (担当教員: 中村) ヒトは何故見えるのだろうか。眼球は二つあるのに何故一つに見えるのだろうか… 視覚は外界からの情報の80%を処理しています。直径わずか2.5センチの球体を通して我々が認知する視覚の成り立ち。そこに生じる多彩な疾患。究極のマイクロサージェリー。移植治療、人工臓器、iPS細胞、そのいずれも眼科学は常にトップランナーであり続けています。眼科学が扱う領域と病態のベーシックと最先端をご紹介します。Can you see now?</p> <p>2. 画像診断の進歩とAIの必要性について (担当教員: 村上) 画像診断は高時間・空間分解能MDCT, MRIの開発により飛躍的に進歩してきた。3次元ボリュームデータの高速収集により、3次元画像に時間軸を加えた4次元画像が可能となり、また、組織の機能や組成を診断出来る機能画像や組織分別画像も可能となってきた。画像検査は病変の診断能のみならず、局所低侵襲治療の精度の向上にも非常に寄与する。近年、発展めざましいAIの進歩は画像診断の質の向上に寄与することが期待される。これらの最新画像診断について紹介します。</p>	

授業の概要と計画	<p>3. 再生医療・スポーツ医学について (担当教員：黒田) iPS細胞の発見以降、再生医療は飛躍的に進歩し、今までは不可能と言われていた組織・臓器の再生が可能になりつつあります。脊椎、四肢関節など運動器を再建・再生する整形外科分野ではすでに再生医療の臨床応用が始まっています。スポーツ医学、再生医療の最先端をご紹介します。</p>
	<p>4. がん治療への取り組みについて～肺がんを中心に～ (担当教員：眞庭) 国民全体の死亡原因の約3分の1は「がん」であり、中でも「肺がん」は死亡者数の1位となっている。肺がんの原因としてこれまでは喫煙による慢性的な気道の刺激や炎症が主であったが、最近では喫煙とは直結しない遺伝子の変異による発生が問題となりつつある。そして現時点では、早期に見つけだし切除(手術)することが最も確実な治療法であるとともに、特異的な遺伝子異常に対する分子標的薬による治療が本領域におけるプレジジョン・メディシンとして脚光を浴びつつある。講義ではこの肺がんを主題にして、「がん」に対する医学・医療の最新の取り組みを紹介する。</p>
	<p>5. 臓器移植について (担当教員：福本) 外科手技や免疫抑制剤の進歩により心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓などの移植が可能となり、これまで救命できなかった人が助かるようになってきている。なぜ臓器移植が必要なのか。臓器移植によって何が可能なのか。臓器移植はどこに向かうのか。世界と日本の現状などについて解説する。この講義を通じて移植医療についての理解を深めてもらいたい。</p>
	<p>6. 小児医療について (担当教員：飯島) 小児は大人のミニチュアではなく、常に発達を考慮すべきであり、その診療には幅広い知識や高い診療技術が必要である。この講義では、小児特有の生理について理解し、小児科学や小児医療の面白さに触れてもらいたい。また、小児腎疾患の新規治療法の開発を例にあげ、治療法開発の現状と将来の展望について考えてもらいたい。</p>
	<p>7. 麻酔について (担当教員：溝渕) 手術をするために麻酔は不可欠です。麻酔をしないと痛みが強くと手術はできません。不安になって動くと手術はできません。麻酔は、ただ単に患者さんを眠らせるのではなく、手術という侵襲から生体を護ることを目的に行われます。麻酔科医は手術中、外科的侵襲から患者さんを護ると同時に、外科医に快適な手術環境を提供することなど多くのことを考えて麻酔をしています。手術を行うためになくってはならない麻酔とはどういうものかを紹介しします。</p>
	<p>8. 糖尿病：診療と研究の最先端 (担当教員：小川) 糖尿病はインスリンというホルモンの作用不足に基づくエネルギー代謝の障害によって起こる病気であり、放置すると様々な重い合併症を引き起こします。この講義では糖尿病の成り立ちから最先端の治療や新しい治療法の研究・開発まで、糖尿病に関わる幅広い話題を取り上げます。臨床医学を学ぶに当たり、基礎医学の知識がいかに重要か、臨床講座で行われる研究はどのようなものかなどについて、理解してもらえればと思います。</p>
	<p>9. こころの病気について (担当教員：曾良) こころの病気は、誰でもかかる可能性があります。また、その多くは治療をすることで回復します。しかし、こころの病気についての理解はまだ十分とはいえません。こころの病気になったとしても、安心して働き、暮らせる社会にするには、こころの病気について理解を深めていくことから始める必要があります。</p>
	<p>10. 基礎と臨床を繋ぐ薬理学研究について (担当教員：古屋敷) 薬理学は、臨床で使われる薬が心身に働く分子機序を解明し、その知見を新たな薬の開発に活用する学問である。近年では、疾患のモデル動物・細胞を用いて病態の分子機序を解明し、その機序を標的として新たな薬を開発する取り組みも行われている。このように、薬を通じて基礎と臨床が連携することで、医学は進歩してきた。本講義では、ストレス・精神疾患を題材に、基礎と臨床を繋ぐ薬理学研究の一例を紹介する。</p>
	<p>11. ウイルス学について (担当教員：森) 我々の研究室がテーマとしているヘルペスウイルスは、我々の体に感染すると潜伏感染という形態をとって、生涯を我々とともにする。免疫抑制状態などに潜伏感染していたウイルスが再活性化し、我々の体の中で猛威を振るう。しかし、我々の体においてもウイルス感染に対する免疫系が果敢に作動し、ウイルスを攻撃する。そこで、我々の体とウイルス間での攻防が起こる。ウイルスは、我々の体に感染することによって、生命を維持し、そして進化していく。本講義では興味深いウイルスの世界を紹介する。</p>
	<p>12. 心臓血管外科治療の進歩について (担当教員：岡田) 生命維持に重要な役割を果たす心臓大血管に対する外科治療はその黎明期には月にロケットを飛ばすことぐらい困難であると言われていましたが、先人達の努力によりその多くの外科治療が安全に行われるようになりました。さらに高齢化社会に対応すべく、近年手術の低侵襲化にはめざましいものがあります。心臓血管外科治療の進歩と最先端治療を紹介させていただきます。</p>

授業の概要と計画	13. 命を守る皮膚について (担当教員：錦織) 人体で最大の臓器である「皮膚」は体の最外層にあつて、単に体を覆っているだけではなく、外界からの刺激を受けるアンテナとして、外界からのストレスを巧妙な仕組みで制御して体内を守る場として働きます。皮膚の構造と機能を学び、環境中の最大のストレスである紫外線に対して皮膚がどのような防御システムを持っているか、その破綻がどのような事を引き起こすのかを見て皮膚の役割について考えてみましょう。
	14. 救急医療と災害医療：実体験に基づいて学生諸君に知ってもらいたいこと (担当教員：小谷) 医学生は、人を救うことを目標として入学したのだと思いますが、人はいつか必ず死にます。医者人生の前半を消化器外科医として、後半を救急医として過ごした実体験に基づいて、人をどう救うか、人をどう看取るか、そのプロフェッショナルである「医者」として生きる意義についてお話したいと思います。
	15. 命と機能を守る外科について (担当教員：丹生) 頭頸部には上気道や上部消化管など生命維持に必須の器官だけでなく、見る、聴く、話すなどヒトが人として豊かな社会生活を送る上で欠かすことができない感覚器や音声言語機能を担う臓器が集まっています。耳鼻咽喉科・頭頸部外科はこれらの器官や臓器に生じた様々な疾患を取り扱う診療科です。「命と機能を守る外科」・「感覚器のエキスパート」の醍醐味をご紹介します。
成績評価方法	(1) 出席、授業への積極性 (質問、発言など) 10% (2) レポート試験 90%
成績評価基準	レポート試験については、講義内容に関連する課題について適切にレポート作成ができるか
履修上の注意 (関連科目情報)	講義に積極的に参加し、教官に対して新鮮な目で疑問をぶつけて、質問や討論をして下さい。これから医学部で学ぶ上で、教官と接する良い機会ですので、積極的に意見を述べて下さい。
事前・事後学修	事前学修：”授業の概要と計画”の欄に記載された各講義の内容に関連する資料や医療関連のニュースなどを検索し、予習する 事後学修：講義や講義で配布された資料の内容について考察しまとめる
オフィスアワー・ 連絡先	連絡先：医学研究科 生化学・分子生物学講座 (シグナル統合学分野) 教授 的崎 尚 メールアドレス： matozaki@med.kobe-u.ac.jp ・メールにて随時受け付けをします
教科書	講義ごとに資料を配付する
参考書・参考資料 等	医療関連のニュースなど
授業における 使用言語	日本語

B講義室 授業科目名 (医学序説)

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	4月10日 (金)	13:20~14:50	医学序説の初めに (藤澤) 視覚と眼科学序論 (中村)	藤澤・中村
2	4月17日 (金)	13:20~14:50	画像診断の進歩とAIの必要性について	村上
3	4月24日 (金)	13:20~14:50	再生医療・スポーツ医学について	黒田
4	5月1日 (金)	13:20~14:50	がん治療への取り組みについて ～肺がんを中心に～	眞庭
5	5月8日 (金)	13:20~14:50	臓器移植について	福本
6	5月15日 (金)	13:20~14:50	小児医療について	飯島
7	5月22日 (金)	13:20~14:50	麻酔について	溝渕
8	5月29日 (金)	13:20~14:50	糖尿病：診療と研究の最先端	小川
9	6月12日 (金)	13:20~14:50	こころの病気について	曾良
10	6月19日 (金)	13:20~14:50	基礎と臨床を繋ぐ薬理学研究について	古屋敷
11	6月26日 (金)	13:20~14:50	ウイルス学について	森
12	7月3日 (金)	13:20~14:50	心臓血管外科治療の進歩について	岡田
13	7月10日 (金)	13:20~14:50	命を守る皮膚について	錦織
14	7月17日 (金)	13:20~14:50	救急医療と災害医療：実体験に基づいて学生諸君 に知ってもらいたいこと	小谷
15	7月31日 (金)	13:20~14:50	命と機能を守る外科について	丹生

科目名：細胞生物学1（2単位）

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 教授 的崎 尚
	連絡方法	“オフィシアワー・連絡先”を参照
	備 考	
担当教員	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 教授 的崎 尚
	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座（膜動態学分野） 教授 匂坂 敏朗
	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座（分子脳科学分野） 准教授 小林 千浩
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 准教授 村田 陽二
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（分子細胞生物学分野） 助教 富樫 英
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 助教 小谷 武徳
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 客員教授 川辺 浩志
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	愛媛大学大学院 医学系研究科 教授 金川 基
授業のテーマ	あらゆる生命の基本単位である細胞の構造，機能，ふるまい，研究手法について講義する。	
授業の到達目標	細胞はあらゆる生命の基本単位である。細胞生物学1・2講義では，将来医学を学ぶための基礎を築くために，細胞の構造，機能，ふるまい，研究手法を理解することを目標とする。	
授業の概要と計画	<p>本講義は、教科書のEssential 細胞生物学（原書第4版）に従って，以下の様に行います。</p> <p>第 1,2回第1章 “細胞：生命の基本単位” について（担当：的崎 尚，村田陽二） 生命の基本単位である細胞の構造と機能を明らかにすることによって生命の仕組みを理解しようとする細胞生物学を1年間かけて学ぶにあたり，第1回目の講義では細胞の概観をつかんでもらう。多様な細胞に共通する性質，原核細胞と真核細胞の違い，真核細胞の主な構造と起源を学ぶ。また，細胞を研究するために欠かせない顕微鏡法や，種を越えた細胞の基本的性質を解明するために用いられるモデル生物についても理解を深める。</p> <p>第 3,4回第2章 “細胞の化学成分” について（担当：匂坂敏朗） 細胞の統一性を支えている生物過程の本質とは，分子間の相互作用，言い換えれば分子同士の間で起こる化学反応である。生化学反応とは細胞内で起こる化学反応である。生化学反応を理解するには，化学結合を理解する必要がある。本講義では，細胞を構成する分子，構造，化学的特性，分子間の相互作用を概説し，細胞における化学結合の重要性を理解することを目的とする。</p> <p>第 5回第3章 “エネルギー，触媒作用，生合成” について（担当：匂坂敏朗） 細胞は動的な秩序を自ら形成する能力を持つ。化学反応の触媒である酵素は，物質の化学的変換の秩序（動的な秩序）を決定する分子装置である。本講義では，酵素の基本概念と反応速度論を概説し，細胞における酵素の重要性を理解することを目的とする。</p> <p>第 6,7回第4章 “タンパク質の構造と機能” について（担当：富樫 英） タンパク質が多様な役割を果たせるのは，実にいろいろな形をとれるからである。本講義では，タンパク質研究の現場において実際に使用している精製方法や構造決定法を学ぶことでアミノ酸の性質やタンパク質の2次構造・3次構造の基礎について理解を深め，タンパク質の機能が理解できるようになることを目標とする。</p>	

授業の概要と計画	<p>第 8回第5章 “DNAと染色体” について (担当: 金川 基) 生命の遺伝情報を担うのは一対の相補的な二重らせんとなっているDNA分子で、情報はA, T, G, Cというヌクレオチドの並び方により暗号化されている。本講義では、DNA分子が真核細胞においてはどのように収納されているかを概説し、遺伝情報が安定にしかもコンパクトに保存できている仕組みを理解することを目的とする。</p> <p>第 9回第6章 “DNAの複製、修復、組換え” について (担当: 金川 基) 細胞の遺伝情報はDNA→RNA→タンパク質という向きに流れ、DNAのもつ遺伝情報がRNAやタンパク質に変換されることを遺伝子の発現という。本講義では、DNAからRNAが転写される仕組みや機能の異なる数種のRNAの働き、RNAからタンパク質が合成される翻訳について概説し、細胞が遺伝情報を発現する機構を理解することを目的とする。</p> <p>第10, 11回第7章 “DNAからタンパク質へ—細胞がゲノムを読み取るしくみ” について (担当: 小谷武徳) 細胞の遺伝情報はDNA→RNA→タンパク質という向きに流れ、DNAのもつ遺伝情報がRNAやタンパク質に変換されることを遺伝子の発現という。本講義では、DNAからRNAが転写される仕組みや機能の異なる数種のRNAの働き、RNAからタンパク質が合成される翻訳について概説し、細胞が遺伝情報を発現する機構を理解することを目的とする。</p> <p>第12回第8章 “遺伝子発現の調節” について (担当: 小林千浩) 多細胞生物の細胞は種類が違っていても存在するDNAは同じであるが、細胞の分化につれてそれぞれ異なる遺伝子群が発現するようになり違いが生じる。本講義では、真核生物と細菌の遺伝子調節のやり方を取り上げ、両方に通じる機構およびそれぞれに固有な機構について概説し、遺伝子発現の組み合わせ調節によって多様な細胞がつくられる仕組みを理解することを目的とする。</p> <p>第13回 第9章 “遺伝子とゲノムの進化” について (担当: 小林千浩) DNA塩基配列の変化によって生じてきた。本講義では、遺伝子やゲノムが時と共に変化するしくみやゲノムの情報解読によりゲノムを形づくってきた進化の歴史を知る方法を概説し、進化と遺伝子や生物種の起源との関係を理解することを目的とする。</p> <p>第14, 15回第10章 “現在の組換えDNA技術” について (担当: 川辺浩志) 21世紀になり、DNAやRNA、タンパク質を扱う技術の画期的な進歩により細胞生物学はめざましい進展を見せた。本講義では、組換えDNA技術など遺伝子とタンパク質と細胞を操作する方法を概説し、これらの技術がわれわれの日常生活に如何に大きな影響をおよぼしているについて理解することを目的とする。</p> <p>第16回期末試験</p>
成績評価方法	<p>期末試験90%、授業への出席と参加度（講義内容に対する質問や講義での発言など）10% ただし、期末試験が30点以上60点未満の場合、再試験を一度行い、最終的な合否判定を行います。 一方、30点未満の者は再試験受験資格を失い、その時点で不合格となります。</p>
成績評価基準	<p>期末試験では、教科書の内容及び講義中に説明した事項について正確に理解できているかを評価します。</p>
履修上の注意 (関連科目情報)	<p>本講義科目は、分類上では「転換教育科目」にあたりますので、試験に関する規則などは医学部の専門科目と同様の扱いになります。即ち、期末試験結果が30点未満の者は再試験受験資格を失います。また、1年次から2年次への進級要件となります。</p>
事前・事後学修	<p>事前学修：教科書、参考書そしてインターネット等により、当日講義が予定されている課題について十分に予習し、講義に参加すること。 事後学修：教科書の授業で取り扱った部分を再読し、授業で学んだことについてまとめること。</p>
オフィスアワー・連絡先	<p>連絡先：医学研究科 生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 教授 的崎 尚 メールアドレス： matozaki@med.kobe-u.ac.jp ・メールにて随時受け付けをします。</p>
学生へのメッセージ	

今年度の工夫	細胞を理解するためには、言葉以外に細胞の形態や微細構造を知ることが重要です。従って、画像や動画を多用し、細胞のイメージを理解させることにも留意します。また、理解度をチェックするために、必要に応じて講義時間内に演習を行います。
教科書	指定教科書 Essential 細胞生物学（原著第4版）Bruce Alberts等著，中村桂子等訳 南江堂 ISBN 978-4-524-26199-4 C3047 本体8,000円，良く書かれている教科書なので，生物選択者でなくても，自学自習可能です。教科書がボロボロになるまで勉強して下さい。 ※H28年度より，教科書が第3版から第4版に改訂されました。準備の際は気を付けて用意して下さい。
参考書・参考資料等	「特になし」
授業における使用言語	日本語
キーワード	
参考URL	

大講義室

授業科目名 (細胞生物学1)

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	4月10日 (金)	10:40~12:10	1章 細胞：生命の基本単位 (1)	的崎
2	4月17日 (金)	10:40~12:10	1章 細胞：生命の基本単位 (2)	村田
3	4月24日 (金)	10:40~12:10	2章 細胞の化学成分 (1)	匂坂
4	5月 1日 (金)	10:40~12:10	2章 細胞の化学成分 (2)	匂坂
5	5月 8日 (金)	10:40~12:10	3章 エネルギー、触媒作用、生合成	匂坂
6	5月15日 (金)	10:40~12:10	4章 タンパク質の構造と機能 (1)	富樫
7	5月22日 (金)	10:40~12:10	4章 タンパク質の構造と機能 (2)	富樫
8	5月29日 (金)	10:40~12:10	5章 DNAと染色体	金川
9	6月12日 (金)	10:40~12:10	6章 DNAの複製、修復、組換え	金川
10	6月19日 (金)	10:40~12:10	7章 DNAからタンパク質へ -細胞がゲノムを読み取るしくみ (1)	小谷
11	6月26日 (金)	10:40~12:10	7章 DNAからタンパク質へ -細胞がゲノムを読み取るしくみ (2)	小谷
12	7月 3日 (金)	10:40~12:10	8章 遺伝子発現の調節	小林
13	7月10日 (金)	10:40~12:10	9章 遺伝子とゲノムの進化	小林
14	7月13日 (月)	10:40~12:10	10章 現在の組換えDNA技術 (1)	川辺
15	7月17日 (金)	10:40~12:10	10章 現在の組換えDNA技術 (2)	川辺

科目名：細胞生物学2（2単位）

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 教授 的崎 尚
	連絡方法	“オフィスアワー・連絡先”を参照
	備 考	
担当教員	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 教授 的崎 尚
	役 職 氏 名	科学技術イノベーション研究科/医学研究科内科系講座（iPS細胞応用医学分野） 教授 青井 貴之
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 准教授 村田 陽二
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 准教授 村田 陽二
	役 職 氏 名	生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 講師 齊藤 泰之
	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座（細胞生理学分野） 特命准教授 水谷 清人
担当教員 (学部外)	役 職 氏 名	バイオシグナル総合研究センター 教授 伊藤 俊樹
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	自然科学研究機構 生理学研究所 教授 古瀬 幹夫
授業のテーマ	あらゆる生命の基本単位である細胞の構造，機能，ふるまい，研究手法について講義する。	
授業の到達目標	細胞はあらゆる生命の基本単位である。細胞生物学1・2講義では，将来医学を学ぶための基礎を築くために，細胞の構造，機能，ふるまい，研究手法を理解することを目標とする。	
授業の概要と計画	<p>本講義は，教科書のEssential 細胞生物学（原書第4版）に従って，以下の様に行います。</p> <p>第1回第11章 “膜の構造” について（担当：村田陽二） 生命の基本単位である細胞は，細胞膜とよばれる膜によって囲まれ，さらに細胞の中にも膜で仕切られた数々の細胞内区画が存在する。これらの膜を合わせて生体膜とよぶ。本講義では，細胞の基本構造である生体膜が脂質二重層と膜タンパク質から構成されることを学ぶ。さらに，脂質，膜タンパク質の構造と性質を知り，これらがどのように生体膜の機能に反映されているかについて理解を深める。</p> <p>第2回第12章 “膜を横切る輸送” について（担当：村田陽二） 細胞膜は，外界から細胞を単に隔離しているのではなく，外界との間で様々な物質を選択的にやりとりすること（膜輸送）によって細胞活動を維持している。本講義では，細胞膜が小分子の移動を制御する膜輸送の原理を脂質二重層と輸送タンパク質の機能から理解する。エネルギーを費やす能動輸送について，Na⁺K⁺ポンプやCa²⁺ポンプを例にあげてその重要性を学ぶ。さらにイオンチャネルが膜電位形成に果たす役割を理解し，その重要な例として，神経細胞のイオンチャネルのはたらきによって神経情報伝達が行われる基本的なメカニズムについて理解を深める。</p> <p>第3回第13章 “細胞が食物からエネルギーを得るしくみ” について（担当：伊藤俊樹） 細胞が生命活動を営むためには，外界から供給されたさまざまな栄養素を利用可能なエネルギーへと変換することが必要となる。本講義ではまず，糖，アミノ酸，脂質の各代謝経路を概観し，実際に共通のエネルギー物質へと変換される仕組みを解説する。次にクエン酸回路の化学反応を解説し，各代謝経路によって生じたエネルギー物質の酸化と引き換えに還元型補酵素（NADH，FADH₂）の形で電子を取り出す仕組みを理解する。</p>	

授業の概要と計画	<p>第 4,5回第14章 “ミトコンドリアと葉緑体でのエネルギー生産”について (担当: 伊藤俊樹)</p> <p>クエン酸回路によって還元型補酵素の形で取り出された電子は、動物細胞を始めとする真核生物においてはミトコンドリア内膜上に存在する電子伝達系へと受け渡される。本講義では電子伝達系の実体とその仕組みを解説し、膜間のプロトン勾配を利用してエネルギーの共通通貨であるATPを産生する機構(化学浸透共役)の理解へと導く。さらに緑色植物の光合成を担う葉緑体における光化学反応を説明し、植物が光エネルギーを利用して水分子から電子を取り出し、ATPを産生する仕組みを紹介する。</p>
	<p>第 6,7回第16章 “細胞のシグナル伝達”について (担当: 的崎 尚)</p> <p>細胞同士が何らかの連絡をとったり、複数の細胞が協調してはたらくために、ある細胞が出したシグナルを別の細胞が受けとって解釈するという細胞の情報伝達の仕組みが存在する。本講義では、シグナル分子が細胞膜上受容体を介して細胞内にシグナルを伝える情報伝達の基本原理を理解する。また、病気の研究からどのようにしてシグナル伝達研究が推進されてきたかや、シグナル伝達研究の成果が治療にどのように応用されつつあるかにつき講義することにより、医学におけるシグナル伝達研究の重要性を学ぶ。</p>
	<p>第 8回第15章 “細胞内区画とタンパク質の輸送”について (担当: 古瀬幹夫)</p> <p>真核細胞には生体膜で囲まれて隔離された様々な細胞小器官が存在し、各々が異なる化学反応を担うことにより細胞全体として複雑な細胞活動が効率よく進行する。本講義では、代表的な細胞小器官の機能に加え、個性をもったそれぞれの細胞小器官が生成するために構成タンパク質が選別、輸送される仕組みを理解する。さらに、小胞輸送エンドサイトーシスとエキソサイトーシスの仕組みを学んで細胞内のダイナミックな物質輸送のメカニズムについて理解を深める。</p>
	<p>第 9回 第17章 “細胞骨格”について (担当: 古瀬幹夫)</p> <p>細胞骨格(cytoskeleton)は、真核細胞の細胞質に張りめぐらされたタンパク質線維の網目構造の総称である。細胞骨格にはアクチンフィラメント、中間径フィラメント、微小管の3種類があり、それぞれが固有のはたらきをもっている。細胞の形や強度を決める文字通り「骨組み」の役割ばかりでなく、細胞の運動や変形、分裂といったダイナミックな細胞の営みに細胞骨格は深く関与している。このような知識に加え、タンパク質の重合体としての細胞骨格の性質と相互作用するタンパク質の機能から、どのようにして細胞骨格の多彩な役割がもたらされているかを理解する。</p>
	<p>第10,11回第18章 “細胞周期”について (担当: 齊藤泰之)</p> <p>細胞は、決まった順序で起こる一続きの過程によってその中身を倍加して2つに分裂する。繰り返し起こるこの過程を細胞周期とよぶ。本講義では、遺伝情報を正確に娘細胞へ分配するために精巧に制御された細胞周期の仕組みを学ぶ。具体的には、真核細胞の細胞周期の概要、サイクリンとサイクリン依存タンパク質キナーゼにより細胞周期が制御するメカニズム、チェックポイントの概念を理解する。関連して、プログラム細胞死の概念、細胞外シグナルによる細胞増殖の制御についても学ぶ。細胞周期の中でも細胞分裂は古くから観察されてきたきわめてダイナミックな過程である。本講義では、真核細胞の細胞分裂において、遺伝情報である染色体と細胞機能に必要な様々な細胞内成分が正確に2つの娘細胞に分配される過程をそれぞれ有糸分裂、細胞質分裂として扱い、精巧に仕組まれたその分子メカニズムを理解する。</p>
<p>第12,13回第19章 “有性生殖と遺伝学の力”について (担当: 水谷清人)</p> <p>有性生殖では、二倍体細胞は減数分裂によって一倍体の配偶子を作る。本講義では、減数分裂において二倍体細胞の母方と父方の染色体がそれぞれ1コピーずつ配偶子に分配される機構を学ぶ。またメンデルがエンドウを用いて見つけた遺伝の法則とその応用例について学び、遺伝の法則が有性生殖を行うすべての生物にあてはまることを理解する。更には実験手段として用いられている遺伝学の手法を概説する。</p>	
<p>第14,15回第20章 “細胞のつくる社会: 組織、幹細胞、がん”について (担当: 青井貴之)</p> <p>多細胞生物では、様々な細胞が組織や臓器、個体を形成する。この仕組みを理解する上で、幹細胞を中心とするシステムに着目することは極めて重要である。本講義では、幹細胞の定義や我々の体内あるいは発生過程に存在する幹細胞の具体例について学ぶ。また、幹細胞生物学研究の歴史と現状、将来展望について概説するとともに、幹細胞という観点からのがんについての近年の理解とそれに基づく新規治療開発の試みについて紹介する。</p> <p>第16回期末試験</p>	
成績評価方法	<p>期末試験90%、授業への出席と参加度(講義内容に対する質問や講義での発言)10%ただし、期末試験が30点以上60点未満の場合、再試験を一度行い、最終的な合否判定を行います。</p> <p>一方、30点未満の者は再試験受験資格を失い、その時点で不合格となります。</p>
成績評価基準	<p>期末試験では、教科書の内容及び講義中に説明した事項について正確に理解できているかを評価します。</p>

履修上の注意 (関連科目情報)	本講義科目は、分類上では「転換教育科目」にあたりますので、試験に関する規則などは医学部の専門科目と同様の扱いになります。即ち、期末試験結果が30点未満の者は再試験受験資格を失います。また、1年次から2年次への進級要件となります。
事前・事後学修	事前学修：教科書、参考書、そしてインターネット等により、当日講義で予定されている課題について十分に予習し、講義に参加すること。 事後学修：教科書の授業で取り扱った部分を再読し、授業で学んだことについてまとめること。
オフィスアワー・連絡先	連絡先：医学研究科 生化学・分子生物学講座（シグナル統合学分野） 教授 的崎 尚 メールアドレス： matozaki@med.kobe-u.ac.jp ・メールにて随時受け付けをします。
学生へのメッセージ	
今年度の工夫	細胞を理解するためには、言葉以外に細胞の形態や微細構造を知ることが重要です。従って、画像や動画を多用し、細胞のイメージを理解させることにも留意します。また、理解度をチェックするために、必要に応じて講義時間内に演習を行います。
教科書	指定教科書 Essential 細胞生物学（原著第4版）Bruce Alberts等著，中村桂子等訳 南江堂 ISBN 978-4-524-26199-4 C3047 本体8,000円，良く書かれている教科書なので，生物選択者でなくても，自学自習可能です。教科書がボロボロになるまで勉強して下さい。 ※H28年度より，教科書が第3版から第4版に改訂されました。準備の際は気を付けて用意して下さい。
参考書・参考資料等	「特になし」
授業における使用言語	日本語
キーワード	
参考URL	

大講義室（12/4のみ第1講堂） 授業科目名（細胞生物学2）

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	10月 2日 (金)	10:40~12:10	11章 膜の構造	村田
		13:30~14:30	京都大学iPS細胞研究所 山中 伸弥教授による特別講演 (シスメックスホールで実施予定)	
2	10月 9日 (金)	10:40~12:10	12章 膜を横切る輸送	村田
3	10月16日 (金)	10:40~12:10	13章 細胞が食物からエネルギーを得るしくみ	伊藤
4	10月23日 (金)	10:40~12:10	14章 ミトコンドリアと葉緑体でのエネルギー生産 (1)	伊藤
5	10月30日 (金)	10:40~12:10	14章 ミトコンドリアと葉緑体でのエネルギー生産 (2)	伊藤
6	11月 6日 (金)	10:40~12:10	16章 細胞のシグナル伝達 (1)	的崎
7	11月13日 (金)	10:40~12:10	16章 細胞のシグナル伝達 (2)	的崎
8	11月20日 (金)	10:40~12:10	15章 細胞内区画とタンパク質の輸送	古瀬
9	12月 4日 (金) ※第1講堂	10:40~12:10	17章 細胞骨格	古瀬
10	12月11日 (金)	10:40~12:10	18章 細胞周期 (1)	齊藤
11	12月18日 (金)	10:40~12:10	18章 細胞周期 (2)	齊藤
12	12月25日 (金)	10:40~12:10	19章 有性生殖と遺伝学の力 (1)	水谷
13	1月 8日 (金)	10:40~12:10	19章 有性生殖と遺伝学の力 (2)	水谷
14	1月15日 (金)	10:40~12:10	20章 細胞のつくる社会：組織、幹細胞、がん (1)	青井
15	1月22日 (金)	10:40~12:10	20章 細胞のつくる社会：組織、幹細胞、がん (2)	青井

科目名： コミュニケーション学 (1単位)

項 目 名	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	医学教育学分野 特命教授 河野 誠司
	連絡方法	E-mail : sjkawano@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	協力：株式会社ユアパートナー 田村夏子、橋本ゆかり
担当教員	役 職 氏 名	医学教育学分野(循環器内科) 特命講師 小林 成美
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	医療社団法人緑風会理事長/ユアクリニック秋葉原院長/昭和大学富士吉田教育学部客員講師 杉原 桂
	役 職 氏 名	ヘルスケアオンライン株式会社 代表取締役社長/慈恵医科大学 非常勤講師 谷田 昭吾
	役 職 氏 名	税理士法人まこと会計 代表/慈恵医科大学 非常勤講師 杉田 祐一
授業のテーマ	将来、チーム医療の一員として、また、豊かな人間性をもった真心ある医療人として、病める人に対し適切な態度で接することができるようになるために、人間関係に必要なことながらを理解するとともに、意思の疎通を適切にはかるための基本的なコミュニケーション手法を習得・体現する。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション概念の基本的事項を指摘することができる。 2. 相手の立場、習慣などによってコミュニケーションのあり方が異なることを指摘することができる。 3. コミュニケーションには共感的なもの論理的なものとの二通りがあることを指摘することができる。 4. 医療に携わる者にとってのコミュニケーション能力の必要性を説明することができる。 5. 対人関係にかかわる身体表現を実践することができる。 6. 多様な観点から人間の価値について説明・討議することができる。 7. 自分の感情・気持ちには、それを決定づけるルールがあることを指摘することができる。 8. 感情・気持ちを決定づけるルールの基準は、他者と自分とは異なるということを指摘することができる。 9. 他者の言動には、それを生み出すルールがあることを指摘することができる。 10. 他者の言動のルールについて冷静に考える姿勢を示すことができる。 11. 自分がある気持ちになる原因・理由を説明することができる。 12. セルフケアの必要性を説明することができる。 13. 自分自身の現在の心の状態をみつめる姿勢を示すことができる。 14. ストレスがかかった状態で起こる状況を説明することができる。 15. コミュニケーションのあり方としてふさわしい態度を実践することができる。 	
授業の概要と計画	第1回： 信頼関係を築く 第2回： 見方を変えてみる 第3回： それぞれが使っている感覚 第4回： アイデンティティと価値観 第5回： 人それぞれの価値観① 第6回： 人それぞれの価値観② 第7回： 折れない心① 第8回： 折れない心②	
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 出席率は評価には含めない。 (2) 授業中の態度点(受講態度ならびに各種グループ作業の参加態度・積極性)、提出物で評価する。定期試験は実施しない。左記の各項目を総合的に評価したうえで総計を100%とする。 (3) 【再試験】 不合格の原因となった課題について、補習を実施したうえで再試験に相当する提出物課題を与える。 	

成績評価基準	<p>(1)【態度点】(50%) すべての回を対象とし、授業への遅刻(正当な理由のある場合を除く)、受講態度(居眠り・私語・不熱心な態度等)を減点方式で評価する。遅刻・居眠り・私語・不熱心な態度は「良好なコミュニケーションのあり方」に反するものである。授業中に授業担当者が実際に観察をおこない、その結果を評価する。遅刻1回につき評価点2%、受講態度については授業1回につき評価点上限5%を減点する。受講態度の減点対象は、1回の授業内に2度の全体注意を受けたのちに減点対象とする行為が確認された者とする。</p> <p>(2)【提出物】(50%) 授業内容に関し客観的レポートと主観的感想との双方を記述項目として含むものを課す。提出はすべて当該授業の時間内におこなう。(引用をとまなう課題ではない。)したがって欠席した回の場合、課題点は0点となる。また、提出物の評価点には上記の態度点を含むものとする。 期間中で計4本を提出する。 提出物の評価項目は以下のとおり。(各項目の割合は均等とする) ① その回の授業内容の重点項目を理解しているか。 ② 書かれている事柄に内容上ならびに分量上の不足はないか。 ③ 文章表現に著しい問題点はないか。(誤字・脱字等)</p>
履修上の注意 (関連科目情報)	交換留学生受講(特別聴講学生)可:【留学生に求める能力】一般的な日本語でのコミュニケーションが理解できること、自分の意見を日本語で伝えることができること
事前・事後学修	<p>【予習】指定の教科書を購入し、指定の授業前までに指定範囲を読み終えて参加すること(又はBEEFに事前掲載した資料)</p> <p>【復習】授業で取り上げられたテーマを生活の中で活用してみる。どんな場面でもうまく活用ができ、どんな場面ではそれほど活用ができなかったかを理解すること。授業で取り上げられたテーマを物差しとして、家族や友人とのコミュニケーションについて自己観察し、考え方の柔軟性がどこまでか理解すること。</p>
オフィスアワー・連絡先	<ul style="list-style-type: none"> ・学内担当教員 小林成美 seimik@med.kobe-u.ac.jp メールにて随時受け付けをします。 ・各授業の前後で時間を取りますので、当日講師に質問できます。
学生へのメッセージ	<p>コミュニケーションはこれまで以上に医師に求められる必須の能力です。逆に言うと、コミュニケーション能力が低い人は医療人として仕事をしていくことが困難な社会になっていくと予想されます。</p> <p>このクラスでは、自分の価値を伸ばし、未来に役立つスキルを学びます。本ではなく人から学ぶ、という体験を通して、自分自身の使ってるコミュニケーション・パターンに気づき、相手の意欲を引き出すコミュニケーションを身につけてください。</p>
今年度の工夫	アクティブラーニングの形式で、2～6人を1班とする班構成で授業を進める。班構成は随時変更を行い、その班員により討議、発表を伴う各種グループ作業を行う。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション実践トレーニング」杉原桂・野呂幾久子・橋本ゆかり ナカニシヤ出版 (2017) ISBN 978-4-7795-1120-2 ・その他、必要があればBEEFで資料を配付します
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・「レジリエンスの鍛え方」久世浩司 実業之日本社 (2014) ・「わかりあえなことから コミュニケーションとは何か」平田オリザ 講談社現代新書 (2012)
授業における使用言語	日本語
キーワード	コミュニケーション チーム医療 医療コミュニケーション 実務経験教員 ラポール リフレーム ビリーフ レジリエンス 交換留学生(特別聴講学生)可
参考URL	

科目名: 地域医療学 I (1～3年地域医療学として1単位)

項目名	内容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	医学教育学分野 地域医療教育学部門 特命教授 岡山 雅信
	連絡方法	TEL: 078-382-6732 E-mail: dcme@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 職 氏 名	医学教育学分野 地域医療教育学部門 特命助教 八幡 晋輔
	役 職 氏 名	医学教育学分野 医学教育学部門 特命教授 河野 誠司
	役 職 氏 名	医学教育学分野 医学教育学部門 特命教授 石田 達郎
	役 職 氏 名	医学教育学分野 医学教育学部門 特命講師 小林 成美
	役 職 氏 名	医学教育学分野 地域医療支援学部門 特命教授 見坂 恒明
	役 職 氏 名	医学教育学分野 地域医療支援学部門 特命助教 隈部 綾子
	役 職 氏 名	地域医療ネットワーク学分野 特命教授 上田 佳秀
	役 職 氏 名	地域医療ネットワーク学分野 特命教授 柿木 章伸
	役 職 氏 名	地域医療ネットワーク学分野 特命教授 鈴木 和志
	役 職 氏 名	地域医療ネットワーク学分野 特命教授 出口 雅士
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	さいたま市民医療センター 副院長 石田 岳史
	役 職 氏 名	公立豊岡病院組合立日高医療センター 内科部長 小松 素明
授業のテーマ	地域医療は、「地域社会とその住民の暮らしを支えるために、幅広い健康問題や要望に対応する包括的活動」です。地域医療に求められる臨床医像を全員で考えるのが目標です。実際に地域で活躍している医師を講師とし、地域に対する社会貢献の重要性、医師としての根源的な役割について学び、地域医療の本質を考えます。	
授業の到達目標	・地域医療・地域保健の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身につける。	
授業の概要と計画	<p>授業は、講義、グループワーク、成果発表の形式で実施されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：地域医療の概念、地域医療の実践例について。 ・グループワーク：10～11人／グループに分かれて、指定した課題のいずれかを議論します。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療活動を実践するために必要な技能」 ・地域の暮らしを支えるために必要な活動」 <p>・成果発表は、グループワークで導いた課題に対する意見を発表します。 なお、各グループにはチューターがつき、グループで課題ごとに意見をまとめるのを見守ります。</p>	
成績評価方法	<p>地域医療学は1～3年を通して1単位を与えます。</p> <p>地域医療学1は、発表内容50%と提出レポート50%で評価します なお、地域医療学Ⅰ～Ⅲの総合評価は、各学年の評価の加算平均で評価します。</p>	

成績評価基準	以下の基準に従って、発表内容と提出レポートを評価し、採点します。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の概念および活動について理解しているか。 ・上記課題について、適切な論理展開が実施された発表ならびにレポート作成ができるか。
履修上の注意 (関連科目情報)	特にありません。
事前・事後学修	地域医療の概念・活動について事前に学修し、上記課題について、ワークショップで意見を述べる事が出来るようにしておくこと。
オフィスアワー・連絡先	メール(dcme@med.kobe-u.ac.jp)にて随時受け付けます。
学生へのメッセージ	1年生のはじめに、医学教育の中ではひと味違った実習形式の1日となっています。楽しく学修しましょう。
今年度の工夫	グループ発表会では最優秀グループの表彰を行います。
教科書	授業時に資料を配付する。
参考書・参考資料等	地域医療学入門（日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会監修、診断と治療社、2019、ISBN978-4-7878-2384-7）
授業における使用言語	日本語
キーワード	地域医療
参考URL	

地域医療活性化センター(多目的研修室・セミナー室) 授業科目名 (地域医療学 I)

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	9月30日 (水)	9:00~10:40	地域医療の定義と歴史 地域医療の実際：小規模病院 地域医療の実際：中規模病院	岡山雅信 八幡晋輔 石田岳史
		10:40 ~12:00	小グループディスカッション	
		13:00 ~16:00	課題発表、プレゼンテーション投票、総括	

科目名：新医学研究コース（2単位）

区 分	内 容
担当教員	各教育研究分野教員
授業のテーマ	大学入学初期より基礎医学研究に触れ、早くから生命科学に親しむことを目的とする。
授業の到達目標	空き時間を利用し、医学研究室を学生に開放し、研究室研修を行い、実際に研究（実験）に参加し、研究成果を挙げる事を目的とする。
授業の概要と計画	<p>入学直後の適当な日に新医学研究コースを担当する教員による説明会を行う予定である。（日時・場所については別途通知する）。ぜひこの説明会に出席して、各教育研究分野の研究内容や指導方針を知り、受講応募すること。</p> <p>また、定員を超える受講応募があった場合、第2希望以降の教育研究分野に回る可能性があることを承知してほしい。</p> <p>このコースは、入学後1年間実施する選択科目で、開講する曜日、時限等は特に定めず、カリキュラムの空き時間、放課後、長期休暇期間などに指導教員の方針にあわせ適宜実施する。学生は、各教育研究分野（15分野）のいずれかの希望する教育研究分野に配属され上記の期間内に、実験（見学、実験補助なども含まれる）、セミナー、抄読会等に参加する。</p>
成績評価方法	実験（見学、実験補助なども可）、セミナー、抄読会等への主体的な参加及び活動報告書に基づいて各指導教室担当者が成績判定をする（通常の科目と同様に100点満点で採点）。
成績評価基準	各教育研究分野において定めた指導方針に基づいて判定する。
履修上の注意 （関連科目情報）	学生は合同説明会、冊子、インタビュー、ホームページ等の情報をもとに第1志望から第12志望までの希望教室名を記入した履修申請書を医学科教務学生係に提出する。志望者が教室の受け入れ可能人数を超える場合は、第2希望以降の教育研究分野に回る可能性がある。
事前・事後学修	<p>※新医学研究コースの配属先分野の中には、学生が遺伝子組換え実験を行う分野があります。</p> <p>遺伝子組換え実験を行うには、講習を受け、試験に合格する必要がありますので、その際は、配属先教員の指示に従い、必ず講習を受講してください。</p> <p>※ 新医学研究コースの配属先分野の中には、学生が動物実験を行う分野があります。</p> <p>動物実験を行う場合には、配属先教員の指示に従い、必ず講習を受講してください。</p>
オフィスアワー・連絡先	各分野の連絡先は新医学研究コースガイドライン（冊子）で確認ください。
学生へのメッセージ	このコースは、少人数グループで行われるので、指導教員や大学院生と親密な交流が生まれることが期待される。これは、みなさんの将来の医師像、医学者像をイメージするのにきっと役に立つ。また、生物学等の医学の基礎となる科目を履修する際に、各講座・教育研究分野の指導教員は優れたチューターとなるだろう。是非、いずれかの講座・教育研究分野を選び、生命科学の基礎を早めに学習し、有意義な教養科目履修期間を送ろう。
教科書	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。
参考書・参考資料等	進める研究内容に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。
授業における使用言語	日本語